



東中川元気っ子



平成20年度 6月号

園の様子

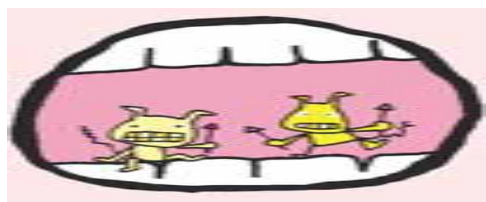
みずぼうそうの発症やおたふくの疑いでお休みするお子さんがいました。今のところ続発はみられませんがこれらの病気は潜伏期間が2～3週間と長いのでゆっくりと感染が広がる可能性もありますので、引き続き気をつけてみていきます。

他に溶連菌感染症にかかったお子さんがいました。また乳児、幼児ともに軽いお腹の風邪にかかり、下痢や軟便が数日続いたお子さんが数名いましたが軽症で済みました。

6月は高温多湿の日も多くカビ菌も繁殖しやすい時期です。清潔な衛生習慣を心がけ、衣服は気温に合わせ調節し、体調を整えていきましょう。

歯科検診の結果

2～3歳頃から急に虫歯になる
お子さんが増えていました。



1日1回

お家の方の仕上げ磨きを

お願い致します。

溶連菌感染症

溶連菌という細菌が感染して起こる扁桃炎

症状 咽頭痛、発熱、発疹など

治療 抗生物質の内服。症状が治っても最後まで抗生剤を続ける必要があります。

治療後24時間くらいは伝染しますので
集団生活はできません

毛虫かぶれ～こども健康メモより～

初夏から晩夏にかけて、子どもの首や腕などに赤い数ミリの発疹が集まってできたり、中には水泡になっている場合もあります。そしてかゆがります。このような症状の多くは、毒蛾の幼虫である毛虫によるかぶれです。毒蛾の羽の粉でもかぶれます。直接触らなくても落ちてきた粉でもかぶれます。また毛虫を触った手でおなか等をかくと服の下にもできます。飛んできた毛が干していた布団に付いて、夜に寝た子どもがかぶれるという事もあります。知らない間にできていることも多いのですが、もし毛虫を触ったのがわかったりかぶれが出ていれば、決してこすったりせずに水で洗い流すことが大事です。こすると広がってかえって良くありません。洗うときにもできるだけこすらないようにします。ガムテープなどを皮膚に当てて粉や毛を取る方法もありますが、テープは貼るたびに新しい面を使ってください。また目は絶対にこすらないように注意してください。

治療は、带状疱疹など他の病気との鑑別がまず必要ですが、ステロイドの入った軟膏を早期に使うことが有効です。



チャドクガ